

相 談	新規の相談をされる際は、お持ちの医療機関ID・パスワードでログインし、相談ID・パスワードを申請取得していただきます。
	相談ID・パスワードは、相談毎にシステムだけが知る形でメールにてお届けしますので、それを利用して相談内容記入ページへログインします。その際、相談ID・パスワードをお届けするメールアドレスはその都度指定していただきます。
	相談に対して回答があった場合、回答があった旨を指定されたアドレスにメールでお知らせいたします。
	回答に対する質問も、同じ相談ID・パスワードにて行うことが出来ます。
インターネット回答	回答者の指定はできません。
	内容の異なる相談をする場合は、再度新規の相談ID・パスワードを取得していただきます。
相談があったことが回答者へメールで連絡され、相談の回答をいたします。	
相談者と回答者は上記のように、相談システムを介して相互にQ&Aを繰り返します。	

操作端末(PC)

院内感染防止対策相談を受けた回答者
(大学病院・ICD)

10. 北九州市

「北九州感染症対策支援ネットワーク事業」について

1 目的

感染症専門家グループと市内医療機関等で構成される「北九州感染症対策支援ネットワーク」を構築し、感染症の早期発見や地域拡大防止に資することを目的とする。

2 構成員

感染症専門家グループである「KRICT（北九州地域感染制御チーム）」と、希望する市内の医療機関等で構成する。

3 参加方法

医療機関等が施設会員としてKRICTへ登録

年会費：3万円（実地指導を行う場合には、交通費・日当等の実費）

4 活動の内容・実績

(1) 院内感染対策への助言及び技術的支援（平成16年4月～12月）

相談件数：18件 実地指導件数：15件

(2) 地域感染症に関する調査・研究及びその情報提供

(3) 医療従事者等の資質向上のための研修会の実施

「感染制御から見たオムツの取扱い」（平成16年9月）

(4) 行政が行う感染症対策への助言及び学問的支援

ノロウイルス対策、MRSA対策に関する助言等

(5) その他

行政主催の研修会への講師派遣

院内感染対策に関するガイドブック、ビデオの作成 など

5 実施時期

平成16年4月1日

6 概念図

別紙のとおり

7 課題

(1) 登録参加施設数の拡大

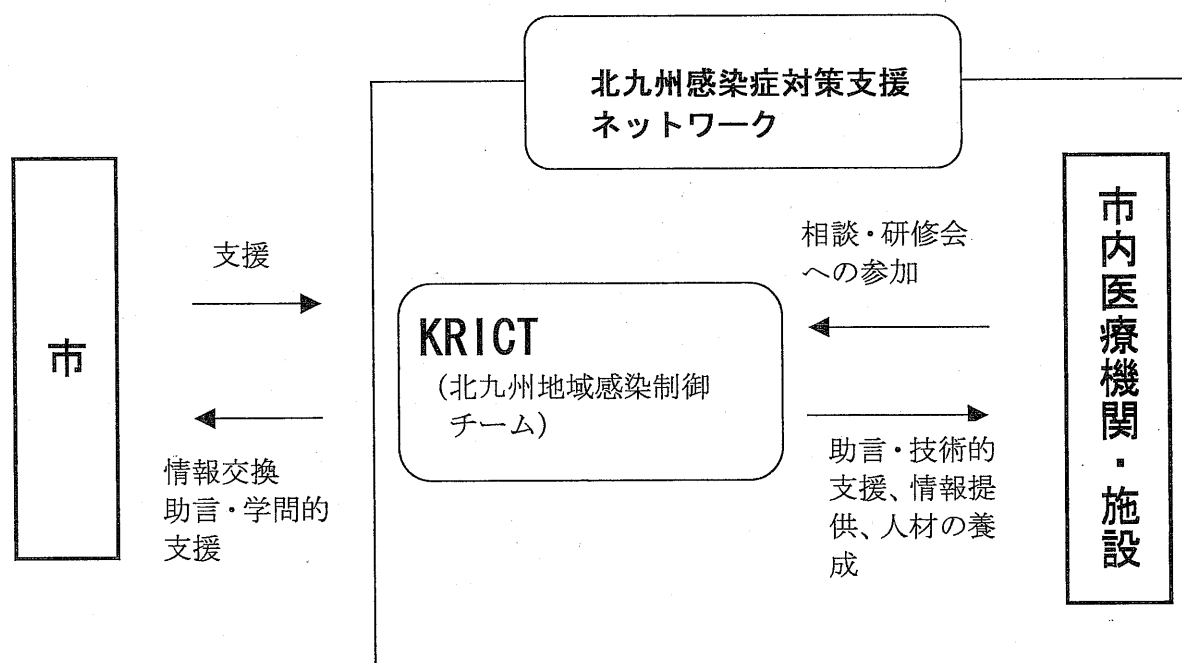
(2) 活動内容の充実

8 参考資料

(1) NPO法人KRICT概要

(2) NPO法人KRICT施設会員募集パンフレット

北九州感染症対策支援ネットワークの概念図



【KRICT（北九州地域感染制御チーム）】

KRICT：Kitakyusyu Regional Infection Control Team

【設 立】平成16年1月、NPO法人化

【理 事 長】松本哲朗（産業医科大学教授）

【会 員 数】個人会員：50名

施設会員：45施設

賛助会員：1施設

【設立経緯】平成14年7月、「北九州病院感染対策研究会」の下部組織・実働部隊として、北九州市及び近隣地区の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、微生物研究者ら、約40名の感染症専門家のボランティア集団として発足し、平成16年1月、NPO法人化。

NPO 法人 KRICT 概要

名称

KRICT:Kitakyushu Regional Infection Control Team(北九州地域感染制御チーム)

目的

医療関係者のみならず、一般市民にも安心できる安全な医療の場を提供する

- 1) 各医療施設の病院感染（院内感染；以下同）対策のレベルアップ
- 2) 地域での感染対策の連携・相互支援

社会背景

1999年の結核緊急事態宣言、2003年の新型肺炎 SARS の勃発、2004年の高病原性鳥インフルエンザの脅威、また炭疽菌や天然痘などのバイオテロの危機等々、感染症を取り巻く環境は近年にない激動の状況を呈しています。もしこれらが病院内で発生したら！ベトナムがいち早く SARS 感染拡大防止に成功したのは、適切な病院感染対策にあったという報告はあまりにも有名です。病院感染は、起こさないことが当然の基本でありながら、その報告は後を絶ちません。いったん病院感染が発生すると、病院への信頼を失墜させ、病院自体の存続に多大な影響を及ぼします。しかしながら新春1月3日の新聞には「6歳未満乳幼児 MRSA 保菌率 5.6%」という順天堂大学・平松教授の研究結果が報告されました。この事は、感染発生の原因が院内か市中かの判断が困難な状況になっている事を示しています。一方、1人の患者が複数の医療機関を受診する機会が増えており、もはや病院感染は発生した一施設だけに留まる問題ではなくなっています。2002年北九州で発生した VRE 事例はまさにこの問題を明らかにしました。

このような観点から、地域での病院感染対策の連携が強く望まれます。

設立経緯

2002年7月、「北九州病院感染対策研究会」の下部組織・実働部隊として、北九州市および近隣地区の中核病院の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、微生物研究者ら、約40名の感染症専門家のボランティア集団として発足致しました。北九州市内では同年5月に VRE の病院集団感染事例が発生しており、その対策関係者が設立の中核となりました。

活動実績

1) 医療機関からの相談への対応:

セラチア、多剤耐性緑膿菌、ESBL 産生菌など電話相談、現場視察指導
他約 80 件の相談に対するコンサルティング

2) 教育・啓蒙活動:

- 2002年10月 一般演題 “当院における院内感染対策の現状と問題点”
佐々木宏和 社会保険田川病院小児科部長
特別講演 “病院内感染-ICT の up to date-”
小林寛伊 NTT 東日本関東病院名誉院長
- 2003年5月 一般演題 “病院感染と栄養サポートチーム”
海塚安郎 新日鐵八幡記念病院集中治療部部長
パネルディスカッション “病院感染対策における問題点と実際の対応”
- 2003年9月 一般演題 “外科医にできる病院感染の予防と対策”
伊藤重彦 北九州市立八幡病院外科部長
特別講演 “病院内感染対策における感染症医の役割と実際”
一山 智 京都大学大学院医学研究科教授